

みにかげをやどすがごとくにあらず、水と月とのごとくにあらず」と。要するに身心を挙げて音を聞くと、親しく会取（自己と一体のものとして会得されること 筆者注）できるといふのだよ。ところがこの身心を挙げていふ場合に、こっちから能動的にかかわるって君はいつたけど、ほんとうは人間がふつうに物を見たり、物を聞くっていふことが、身心をすでに挙げていふことなんだ。

中嶋 ……はあ……、そうか。

佐藤 で、親しく会取してることなんだ。ほんとうは親しく会取しているのに、親しく会取していないと思ってるのが人間にはある。要するに相対化してしまう。自分と対立して考えてしまう。親しく会取しているのはふつうなんだよ。

中嶋 ちょ、ちょっと待って下さい。その親しく会取しているのがふつうなのに……？  
佐藤 元来なんだよ。人間はもともと身心を挙げていふんだよ。ほくがあえて今こんなことをいったのはね、享受という場合に今度はどうと力を入れて身構えてね、そういうことだと考えると、また非常に困ったことにならんだよ。集中なんだからうーんという方向に向けばいい、それなのにお前はちゃんと一生懸命聞いていない、などといって生徒の頭をコツンと打つ、というような、そういう意味じゃあないんだよ、これは。要するにもつとリラックスして聞くということが、身心を挙げて、自己のありつたけを傾けてということなんだ。近く聞けば声いよいよよしというのね、物と自己とが対立しないという、そのこと一つなんです。でその対立しないというのとはさ、ただ我という観念の夢をみないというだけの話なんだ。自分があって、物が

あってという場合のこの自分というもの、我というものは、夢を見ているだけの話であって、夢は見ても見えていなくても、本質的にはおなじことなんだよ。我の夢を見る、我を立てるといふことにおいて、対立があるんです。対立すれば親しくなくて別れちゃうだろ。我というものは実体があるんじゃないよ。観念なんだよ。ほんとうは観念なんだけど、その観念を自分だというふうに実体的に感じてしまうからこそ、人間はこの観念から自殺だってしちゃうわけだ。余分なことだったんだけれど、なんでほくがこんなことをいつたかっていうと、享受の問題とは心の集中の問題なんだといった場合に、うーんと凝り固まる方向に集中がいつてしまうと、それは違うからなんだよ。音楽を聞く場合の集中というのとは、一つの能力ではあるんだよ。音楽を聞いていいなあと聞けるのは、能力なんだけれど、じゃあその聞き方というのはどういうものでしょうかっていわれても、これは伝授できないだろ。いいなあという聞き方を生徒に教える場合、そのいいなあという聞き方は、自分だっただけでどうやってそれをやっているか、わかんないんじゃないか。だけどまさにそれこそ、ほんとうに教えられるなら、教えるべきことなんだよ。だけどこれは、バッハの曲を分析してよくわかり、一生懸命に聞けばそれでよいというようにはいかなんだよ。反射とか科学の考え方というものは、こういう道筋が分析できるといっているんだよ。

中嶋 ええ、そうだと思いますけど。その科学というところに哲学と科学という別々の方法があると考えられていたけれども、実際には哲学と科学の境界は、絶えず科学の領域を拡げる方向で移動してきましたよ。もともと哲学というのは価値の問題から離れるわけにはいかなのですから、どうしても普遍的なものとはなりにくいわけで、したがって、哲学というのは、科学が及ぶまでの仮の認識手段ということもできるわけでしょう？  
佐藤 違うよ。その考え方は根本的に間違っているよ。科学が及ぶって言うけれど、科学が取り扱えるのは何かということだ。科学が取り扱えるのは……、いいかね。たとえば目方なら目方というものは、ほくが計っても、君が計ってもおんなじだという局面で物を取り扱うことだよ。そういうふうに取り扱わなければ科学は成立しないんだ。それが前提でしよう。  
中嶋 それはわかりますけど。科学という概念もほくは拡がってきていると思うんですよ。科学という概念には三つあってね。一つは昔ながらの書齋科学とでもいって、書物の上だけで観念や論理を組み立てていくもの。二つ目はいわゆる実験科学というもので、今先生のいわれた科学というのは、この中に入るものだと思うんですよ。  
佐藤 そうじゃあないよ。まあいつてごらん。中嶋 三つ目は発想法という範ちゅうのもの、川喜田二郎は野外科学なんて名づけていますけれども、これはあくまでも観察データをもとにして、法則を立てていくのですから、実際の現象についての真の認識を含みうると思うんですよ。だから……  
佐藤 でもそれは客観的な認識ですよ。要するにその認識はね、君が認識したのも、ほくが認識したのも、また別の人が認識したのもおんなじだという結論が出なけりゃあ真実とはいえないわけですよ。科学的な真実はね、

客観的な真実ということになるんですよ。ほくだけの、ほくにとつての真実ということだけじゃあ科学にはならんわけです。科学の大前提としてはね……。

中嶋 ああ。わかりました。先生のおっしゃる意味は、あくまでもほくが今いったことは自分と対象と自他の区別をつけた上でのことだというわけです。

佐藤 誰が見てもおんなじというその面で、物事を見ることが科学の前提だよ。ところがね。君の経験とほくの経験は違うんだよ。ほくの実存的真実としてものがあるときに、君の実存的な真実とほくのものとは比較できないんだ。このことがね、人間がひとりひとり人間であるということなんだよ。この問題を科学は取り扱えないんだ。だから科学が全部の世界をおおうことができるっていうのは、錯覚なんだよ。

中嶋 わかりました。確かにそうです。

佐藤 その前提に立つ限りにおいて、人間は人間をわかることができな。実存的な真実に近づくことはできないんだよ。

中嶋 先生が今おっしゃっていることを、宗教的な認識なんていうと、また間違いですね。佐藤 そう。違うよ。実存的な真実というのはそういうものだっていうことが、人間にはあるんだなあ。

中嶋 宗教的であろうと何的であろうと、全部ひっくりめた上でそれが確かだということですね。

佐藤 でも宗教というのは、そういう世界の話だよ。実存にかかわっているんだよ。宗教の中でもいろんなことがあるよ。中途半端なものもあるし、迷信といわれることもある。だけど宗教的な態度というものが如何に世界

に発生して、広がっていき、しかも人間がいつまでもえんえんとこの問題を求めているということは、実存的な真実が、人間にとつて絶対的な真実だからでね。客観的な真実がい

くら真実だつていつたつてね、自分が悲しいとか、うれしいとかいう問題とはかわりがないんだよ。この悲しみとか、喜びとか、何事かを求めているという真実は、どうすることもできないんだよ。だから科学がいつか全部の真実をおおうなんてね、妄想もいってころだよ。初めから取り扱えないものを区別しないで取り扱えると思うのは、君、妄想だよ。

中嶋 わかりました。それでその実存ということに関して、キエルケゴオルが3段階あるといいましたね。彼の実存はよりよく生きようとして不断に決意することという意味です。先生が使われている意味とは違いますが、これもまず美的実存。これはつねにあれかこれかと選択をしいられる立場ですから、自他の対立があり自由ではない。次に倫理的実存。これはいかにあるべきかという立場です。それから、これも我を離れることはできない。そして最後に宗教的実存という最高の実存がくるわけです。ほくは二つ目の倫理の段階までは理解できたんですけども、最後の段階だけはどうしても理解できなかった。それがこの間から先生のお話を伺っていて、先生が今ある認識に達せられたのか、達せられつつあるのか、ほくにはとてもわからないんですけれども、先生は明らかにこの段階に向いつつあるんだなあ、はつきり実感したんです。

佐藤 あのねえ、宗教的実存というのはね、ことばとしてはつきりしないんですよ。しかもね、宗教という概念がね、はつきりしていないんですよ。というのはね、キリスト教と

かその他の宗教をいう場合は、ある絶対者があって、それとのかかわりにおいて救済されるということが *Reigion* といわれているわけだろう。仏教ではね、碧巖録に宗教ということばが使われていたと。それを *reigion* に当てはめたんだよ。だけど宗教ということばが碧巖録に使われた場合には、大もとになる教えだということ。絶対者があって、それとの話しあいであられるということ。なくて、人間存在の根本事実を教える教えだということ。宗教ということの意味だったんだよ。今そこで宗教的実存といっているのはね、わかんないではないけれども、ちょっとね……。だって、実存にそんなにいろんな仕方があるのかい？ たとえばね、出エジプト記にモーゼが初めて神様に会うところがあるんだよ。そこでね、神様が *I am as I am* っていうわけだよ。この訳がね、ありてあるものと思っただよ。

中嶋 先生はそれを如是と訳されるわけでしょう？

佐藤 いや。とりようはいろんなことがあるだろうね。私は *ego* としてあるものであるということ。たとえば鈴木大拙さんが如是ってことを英訳する時に、*as it isness* と訳したんだよ。でもね、*I am as I am* についてね、これは実存なんじゃないの？ 疑いようも、どうしようもないんじゃないの？

中嶋 ええ。それじゃここで一つ質問があるんです。岡潔さんが本当の意味での宗教というものが、人間を導いていくことを認めた上で、こういうことをいっているんです。宗教というものは、それがあつかないかという問題よりも、いるかいないか、という問題だ